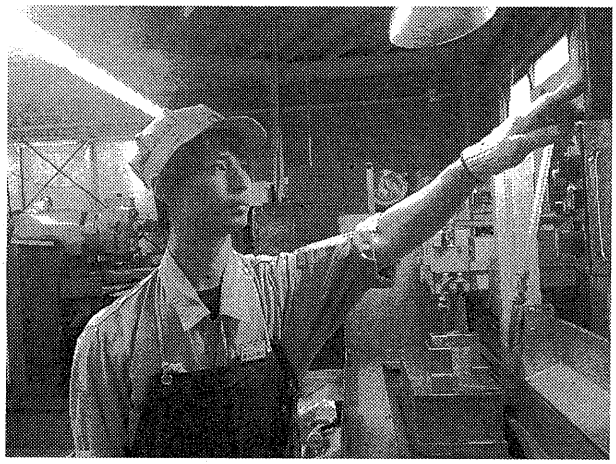
沖縄出身者の採用拡大

中部の人手不足に対応

ツルタ製作所

自動車部品メーカーのツルタ製作所（本社刈谷市一里山町、鶴田昌宏社長）は、沖縄県出身の高卒採用を拡大している。2009年に沖縄出身者の採用を開始。現在、全社員（157人）の1割以上となる23人が沖縄出身者だ。同社では「沖縄の高校生は吸収が早く、のびしろも大きい」とし、中部地方で人手不足が深刻化する中、今後も沖縄出身者の採用を増やして対応する考えだ。（勝又佑記）



生産技術部門で働く沖縄県出身の社員

沖縄出身者の採用は、リーマン・ショック直後に沖縄県の雇用確保に貢献する目的で始めた。鶴田社長自ら沖縄現地の高校を訪問し、主に工業高校の卒業生を採用。16年春は高卒採用全20人のうち7人が沖縄出身者だった。

現在は19～24歳の沖縄出身の社員が勤務。製品の設計や生産技術、品質保証、技能部門など幅広い業務に携わっている。

生産技術部門で働く沖縄出身の屋比久雅力さん(20)は「クルマづくりの一端を担っており、やりがいがある」、上森大夢さん（20）は「高校で学んだCAD（コンピューターによる設計）の知識を生かすことができて、感謝している」と話している。

故郷を遠く離れて働く若者には、安心して楽しく過ごせる環境づくりや心遣いが必要だ。同社では沖縄出身の社員が他の社員となじめるよう社員寮に談話スペースを設けるなど、工夫を凝らしている。その結果、沖縄出身の社員で入社して3年未満の早期離職率は、ここ3年間1割弱に抑えることができている。

鶴田社長は「大手企業が採用を増やす中、愛知県での高卒採用がより難しくなっている。沖縄出身の社員は当社の成長を支えてくれている」と手応えを感じている。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

中部経済新聞

2016.7.14